

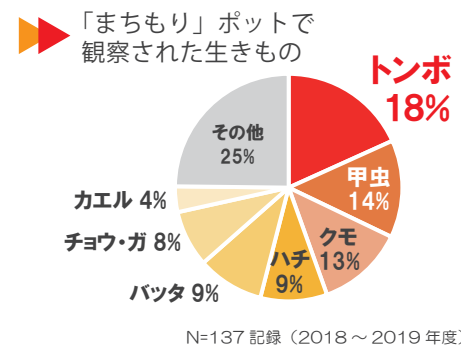
# 「まちもり」アクションNEWS #05



ススキの穂で休む“赤とんぼ”マイコアカネ。地域によっては希少種に選定されています。

## 身近な場所でトンボを探してみませんか？

昨年までに「まちもり」ポット\*で観察された生きもの第1位はトンボでした。昆虫の中では比較的大きく、よく飛ぶので目につきやすいようです。そこでこの秋、トンボ、特に“赤とんぼ”に着目した“まちもり”赤とんぼウォッチングを開催します！



## どうして“赤とんぼ”？

“赤とんぼ”といえば、秋の訪れを感じる人も多いのではないでしょうか。秋空の下、田んぼや空き地に無数に群れる姿をイメージしますが、それも昔話になりつつあります。というのも、“赤とんぼ”は全国的に減少傾向で、絶滅危惧種や希少種に指定され保全の対象になっている地域もあるのです。

そこで、今回の取り組みでは、“赤とんぼ”を中心に広くトンボの仲間の観察記録を集めたいと思います。観察場所は「まちもり」ポットだけではなく、事業所内のその他の緑地や、みなさんのおうちの庭や近くの公園なども対象とします。ステイホームの中ではありますが、身近な自然に触れてリフレッシュしてみたいいかがですか？ ※新型コロナウイルス感染予防をお願いします！



トンボは、世界で5,000種類ほどが確認されている昆虫です。幼虫は水中で過ごし、羽化後は高い飛翔能力と発達した眼を活かしてハエやカ、ガ、他のトンボなどを捕食します。日本では害虫を食べることから、古くから親しまれてきました。

## “「まちもり」赤とんぼウォッチング”の概要

- 【対象期間】2020年9月15日～11月15日
- 【対象者】旭化成グループ全ての従業員の方
- 【対象生物】全てのトンボ類 ※“赤とんぼ”の場合はポイントアップ！
- 【対象場所】
  - ・「まちもり」ポット ※「まちもり」ポットでの記録はポイントアップ！
  - ・その他（事業所内の緑地や自宅の庭、近所の公園など）
 ※事業所内での撮影は各事業所のルールに従い、公園などにおいても安全を確保した上で観察・撮影してください！
- 【記録方法】
  - ・トンボを見つけたら写真撮影して、観察日、場所（環境）を記録
  - ・図鑑などで種類を調べる
- 【参加方法】『トンボの写真』と『報告者氏名、撮影日、場所（環境）、調べたトンボの種類名』をイントラネット内の専用バナーから投稿 ※種類名は間違ってもかまいません！「不明」でもOK！
- 【評価方法】事業所単位で「まちもり」ポイント（MMP）を付与、期間中の合計ポイントを算出します
  - ルール①「赤とんぼ」の種類まで同定出来れば5MMP、「赤とんぼ」までなら4MMP、その他トンボは3MMP
  - ルール②「まちもり」ポットで確認すれば①×3倍のMMP、その他事業所内や自宅周辺で確認すれば×1倍



## 主な“赤とんぼ”7種類の見分け方

下記の写真の種類名が赤色のものが“赤とんぼ”です。

日本には200種類を超えるトンボが生息していますが、実は“赤とんぼ”という名前のトンボは存在しません。“赤とんぼ”とは、アカネ属とアカトンボ属に分類されるトンボの総称で「アキア

カネ」や「ナツアカネ」など、日本では21種類が見られます。今回はそのうち出会う可能性が高い7種類と、似ているけれど“赤とんぼ”ではない2種類、最もよく見るシオカラトンボを紹介します。

 胸の真ん中の黒い線の先がとがる	 黒い線の先がとがらない	 胸に黒い線はほとんど無い 尾先が上にはねる	 胸の黒い線は短い 雄の顔は青白い
 はねの先が褐色 胸には黒い2本の直線	 はねの先が褐色 胸には黒いU字の線	 はねの途中が褐色	 胸に黒い線はほとんど無い 全体的に薄い黄色
 はねの付け根が赤～黄色 顔や体全体が鮮やかな赤色	 全体的に青白色で白い粉に覆われる	 黒と黄色の縞模様	<p>Point 1 赤とんぼを見分けるポイントは、胸とはねの模様！</p> <p>Point 2 同じ種類でも雌雄や成熟度合いて色が違うこともある！</p> <p>スマホでの撮影時にはマクロモードがおススメ！</p>



# 「まちもり」アクションNEWS #06



## 「まちもり」赤とんぼウォッチングから見える事業所の緑と地域の自然

写真は全て事業所から投稿いただいた写真です。No. は下の「トンボ投稿数ランキング」のNo. を示しています (No.21 のみ写真なし)。赤字は赤とんぼの仲間。

### 赤とんぼウォッチング 結果発表!

2020年9月15日から11月16日までの約2か月間で11カ所の事業所から合計96投稿を頂き、22種類のトンボを確認しました! 投稿数ランキング第一位は赤とんぼの仲間アキアカネで、約3割を占めました。第2位は同じく赤とんぼの仲間ノシメトンボと、緑色に輝くアオイトトンボとなり、身近なトンボのシオカラトンボは第五位でした。投稿いただいた皆様、ありがとうございました!

### 専門家もおどろく11種類の赤とんぼ

今回、注目した“赤とんぼ”は全国的に減少傾向で、絶滅危惧種や希少種に指定され保全の対象になっている地域もあります。投稿の約7割が赤とんぼの投稿で、合計11種類が記録され、日本の赤とんぼ全21種の半数以上を確認したことになります。特に、近年減少が著しいと言われるマイコアカネやミヤマアカネ、ナツアカネなどの記録は、とても貴重な地域の生物情報になります。



投稿写真の種類判定をお願いした昆虫専門家の牛島積広先生(日本トンボ学会)

断片的な観察記録ではありますが、従業員参加型の取り組みとしては、かつてない成果です! ぜひ学会にも報告したいですね。

### ▶ トンボ投稿数ランキング

No.	種類名	投稿数
1.	アキアカネ	28
2.	ノシメトンボ	8
3.	アオイトトンボ	8
4.	マユタテアカネ	5
5.	コノシメトンボ	4
6.	ナツアカネ	4
-	アカネ属の一種*	4
7.	シオカラトンボ	4
8.	キトンボ	3
9.	ヒメアカネ	3
10.	ミヤマアカネ	3
11.	アオモンイトトンボ	3
12.	ウスバキトンボ	3
13.	カトリヤンマ	3
14.	リスアカネ	2
15.	ハグロトンボ	2
16.	ベニトンボ	2
17.	ネキトンボ	1
18.	マイコアカネ	1
19.	オオアオイトトンボ	1
20.	ホソミイトトンボ	1
21.	エゾトンボ	1
22.	オオシオカラトンボ	1
-	不明	
合計	22種類	96投稿

\*写真判定の結果、アカネ属の仲間であるが種類までは不明だったトンボ(種類数には含めず)。

### 神出鬼没!? 平野にも山にも現れるアキアカネ

投稿ランキング第一位のアキアカネは、主に10月以降平地で観察されましたが、9月23日に滋賀県の伊吹山(標高1,377m)の山頂付近でも記録されました。実は、アキアカネは初夏に平地の水田などで羽化した後、夏の間は避暑のため高地へ行き、秋に産卵のために再び平地に降りてくるのです! アキアカネの特異な生態を知ることができる大変興味深い投稿ですね。

また、10月20日には神奈川県川崎市での記録もありました。投稿数が多かったとはいえ、かつての生息数からの減少率は非常に高いと言われるアキアカネは、関東地方では特に少ないとされています。そのため1回の観察とはいえ、とても貴重な記録だと言えます。



伊吹山で撮影されたアキアカネの雄(写真上)と雌(写真下)。

川崎で撮影されたアキアカネ。関東地方での記録は貴重。



三重県鈴鹿市

滋賀県高島市

その他各地で撮影されたアキアカネたち。近くの山と行き来していると考えられます。

### 赤いのに“赤とんぼ”じゃない? ベニトンボ



大分県大分市

ベニトンボは名前の通り雄は紅色(赤紫色)の体特徴ですが、分類学上“赤とんぼ”の仲間ではありません。日本では九州南部と南西諸島に分布する南方系のトンボです。今回確認されたのは大分県の事業所で、まさに地域性を反映した記録といえます。そしてこのトンボ、2000年代になってから四国でも確認例が増え、分布が北上しているようなのです。地球温暖化の影響も考えられており、今後九州以外の事業所で見つければ大発見です!

### トンボをシンボルとしたビオトープ

滋賀県の2つの事業所では、地域の豊かな自然とのつながりや豊富な湧水を活用したビオトープによる生物多様性保全に取り組んでいます。その地域に生息する希少種を“推シトンボ”に定め、ビオトープに生息環境を創ることで地域個体群の保全に貢献しています。

今回、滋賀からの投稿が比較的多かったのですが、ビオトープがあることでトンボを見る機会が多かったこと、トンボへの関心が高いことが理由だと考えられます。



旭化成住工 滋賀工場 湯屋のペーベルビオトープ

旭化成 守山製造所 もりビオ

希少種ヨツボシトンボの保全を行っています。今年度ビオトープで繁殖が確認されました。

希少種マイコアカネや絶滅危惧種の淡水魚ハリヨの保全を行っています。

### 「まちもり」ポットを利用するトンボたち

今回、「まちもり」ポットでの記録は15投稿でした。事業所全体から見ると小さな緑ですが、ちゃんとトンボたちにも利用されていました。特にポットの近くに水路や調整池など水辺がある場所での確認が多かったようです。赤とんぼウォッチングは終了しましたが、今後も「まちもり」ポットを覗いてみてください!



守山製造所 ナツアカネ

大分工場 シオカラトンボ